



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	下田新庁舎	BEE	2.2	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.1	/5		よい	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.5	/5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.4	/5		よい	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.2	/5		ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	4.1	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①室温制御については、輻射パネルを一部採用することにより、空調による風が直接人に当たらないよう配慮した。</p> <p>②昼光対策については、執務空間上部にハイサイドガラスを計画し、昼光を効率的に活用できる計画とした。</p> <p>③グレア対策については、不快グレアが発生しないよう、照明器具の選定や配置計画の検討を行った。</p> <p>④部品・部材の耐用年数については、10年~20年を基本とし、機器の交換が行いやすい仕様とした。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2	① 外皮性能		
	Q-1 3 3.1 3.1.3	② 昼光利用設備		
	Q-2 2 2.2 2.2.1	③ 昼光制御		
	2.2.2 2.2.3 2.2.4 2.2.5 2.2.6	④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤生物環境の保全については、自然植生を中心した植栽計画とし、周辺との生態的調和に配慮した。</p> <p>⑥敷地内に地被植物や樹木を計画することにより、敷地内の温熱環境の工場に配慮した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦BPIを0.76とし、十分な外皮性能を確保することにより、熱負荷の抑制を行った。</p> <p>⑧温泉熱を自然エネルギーの積極的な活用を行う計画とした。</p> <p>⑨太陽光パネル及び蓄電池を採用することにより、設備システムの高効率化を図った。</p> <p>⑩照明については、昼光センサーを利用することにより、照明を効率的に利用出来るように配慮した。</p>	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出		
	3 3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上		
	LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制		
	2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制			
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪自動水栓や節水タイプの大便器を採用することにより、水資源の保護に配慮した。</p> <p>⑫既存の体育館を利用することにより、非再生資源の使用量を大幅に削減した。</p> <p>⑬不活性ガス消火剤を利用し、汚染物質含有材料の使用を回避した。</p>	LR-2 1 1.1	⑪ 節水		
	1.2 1.2.1	⑪ 雨水利用システム導入の有無		
	1.2.2	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無		
	2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒		
	LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮		
	2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.5
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯基準法に定められた耐震性を確保した構造計画とした。</p> <p>⑰受水槽室は水密扉の内部とすることにより、水害時に対応可能な使用とした。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯ 耐震性	
		2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 免震・制振性能 ⑯ 空調・換気設備 ⑯ 給排水・衛生設備 ⑯ 電気設備 ⑯ 機械・配管支持方法 ⑯ 通信・情報設備	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	4.4
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱バリアフリー法を満たしつつ、わかりやすいサイン・動線計画とし、誰にとっても利用しやすい計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>⑲1階部分は市民にも開放できる室を配置するとし、地域に寄与する建築計画とした。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画		
	3 3.1 3.1.1 3.1.2	⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ		
Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上			
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.2	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑲自然植生を中心とした緑化計画を行うことにより、野生生物の生育環境の保全に配慮した。⑳静謐な景観をもつ西側接道部には、地域名産などの植栽を配置することにより、周辺環境との調和に配慮した。㉑敷地内に地被植物や樹木を計画することにより、敷地内の温熱環境の工場に配慮した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑲工事段階において、可能な範囲で間伐材や県産材等を利用する計画とした。</p> <p>⑲地被植物を積極的に植えることにより、温熱環境悪化の改善を図った。</p>	Q-3 1	⑲ 生物環境の保全と創出		
	2	⑲ まちなみ景観への配慮		
	3 3.2	⑲ 敷地内温熱環境の向上		
LR-2 2 2.5	⑲ 持続可能な森林から産出された木材			
LR-3 2 2.2	⑲ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE[®]-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	下田新庁舎	階数	地上2F
建設地	静岡県下田市	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、法22条地域	平均居住人員	192人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,220時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年3月31日
敷地面積	11,751㎡	作成者	下田市
建築面積	3,007㎡	確認日	2024年3月31日
延床面積	4,315㎡	確認者	末光弘和



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(パーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>・既存体育館を躯体をそのまま活用しつつ、体育館内への増床及び増築を行う計画とし、建物解体における環境負荷を大幅に削減した。・建物の外皮性能を高い水準で確保することにより、熱負荷を削減する計画とした。空調機器は井水及び温泉を熱源とすることにより、自然エネルギーを活用しつつ、電気使用量を削減する計画とした。これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。</p>		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p><音環境>執務空間の天井には吸音材を吹付け、残響時間が過長にならないよう配慮した。<温熱環境>補助空調として輻射パネル式の空調を採用し、快適性に配慮した計画とした。<光・視環境>執務空間上部にハイサイドガラスを計画し、昼</p>	<p><機能性>執務空間は十分な天井高さを確保しつつ、リフレッシュスペースを複数箇所計画することにより、職員が快適に業務を行えるよう配慮した。<耐用性・信頼性>防災拠点として人命確保のみならず、大地震後の機能維持が可能な耐震性を確</p>	<p><生物環境の保全>自然植生を中心とした緑化計画を行うことにより、野生生物の生育環境の保全に配慮した。<まちなみ・景観への配慮>静謐な景観をもつ西側接道部には、地域名種などの植栽を配置することにより、周辺環境との調和に配慮し</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p><建物外皮の熱負荷容量>サッシのガラスにはLow-Eペアガラスを採用し、外皮の熱負荷抑制に配慮した。<自然エネルギーの利用>敷地周辺が温泉地であることから、温泉水を利用した暖房計画とした。<設備システムの高効率化>本庁舎は地下水を蓄熱槽に貯留して、空調熱源として利用するシステムを</p>	<p><水資源保護>自動水栓の利用、擬音装置機能付便器、大便器節水Ⅱ型を採用した。<非再生性資源の使用量削減>適正な強度のコンクリート及び鉄骨の使用しつつ、一部にプレキャストコンクリートを採用することにより、材料の使用量を削減した。<既存建築躯体等の継続使用>既存体育館をそのまま活用す</p>	<p><地球温暖化への配慮>既存体育館をそのまま活用する計画とし、ライフサイクルCO₂を大幅に削減できる計画とした。<温熱環境悪化の改善>シミュレーションによる風の解析を行い、有効な自然エネルギーの活用をしつつ、敷地外に悪影響を与えないように計画した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される